

# 現行の北区環境基本計画の進捗評価

## 1. 評価の考え方

- 現行の「北区環境基本計画」で示されている環境目標が達成され、目標とする環境像「自然環境共生都市～みんなが環境を考え・行動するまち～」の実現へとつながっているかどうか、総合評価を実施します。
- 成果指標の定量的な目標に対する評価とともに、取り組み状況に対する定性的な評価を加えた総合評価を実施します。

## 2. 評価基準の設定

- 評価基準のうち、「成果指標」については、「目標達成済み」を◎、「目標は達成していないが、計画策定時より向上」を○、「取り組みを実施したが、計画策定時より改善が見られず」を△、「検討中」及び「未実施」を×としました。
- また、区民の目線による計画の進捗評価として、令和3年6月に実施した環境に関する区民アンケート調査における「環境の満足度」の回答結果をふまえ、◎、○、△の3段階評価としました。

評価指標		示すもの	評価基準
施策実施の成果	成果指標	施策の実施成果を現したもの	◎：目標達成済み ○：目標は達成していないが、計画策定時より向上 △：取り組みを実施したが、計画策定時より改善が見られず ×：検討中及び未実施
	満足度	施策の実施効果を示すもの	◎：策定時より5%以上増加 ○：策定時と同程度 △：策定時より5%以上減少
総評		実施状況、満足度を総合的に評価したもの	A：現行計画の方針、事業を継続 B：現行計画を継続しつつ、一部の事業内容等を見直し C：現行計画の方針、事業内容等を再検証

満足度の評価基準：地区の環境について「満足」「まあ満足」「普通」と回答した区民の割合（速報値）

	満足	まあ満足	普通	満足度	やや不満	不満	不明
①空気のきれいさ、さわやかさ	5.4%	21.5%	55.1%	82.0%	14.1%	2.2%	1.6%
②水や水辺のきれいさ	3.9%	22.9%	54.1%	80.9%	14.5%	2.6%	2.0%
③静かで穏やかな生活	10.1%	28.5%	43.2%	81.8%	12.9%	3.9%	1.4%
④移動のしやすさ（区内の移動及び区外への移動）	31.6%	38.6%	23.5%	93.7%	3.4%	1.2%	1.6%
⑤自然や生きものの豊かさ	4.4%	23.9%	56.9%	85.2%	11.3%	1.5%	2.0%
⑥暮らしの中のうるおい（公園・まち中のみどりなど）	7.3%	29.3%	46.5%	83.0%	12.4%	2.6%	2.0%
⑦まち並みの美しさ（景観、ポイ捨て防止など）	2.3%	16.6%	51.2%	70.1%	22.3%	5.7%	2.0%
⑧持続可能な資源循環（3Rなど）	2.6%	11.8%	70.7%	85.1%	10.7%	1.5%	2.7%
⑨地球温暖化に配慮した暮らし（省エネ、再エネなど）	2.5%	8.9%	69.0%	80.3%	15.9%	1.7%	2.1%
⑩災害などからの安全性（風水害対策、感染症・熱中症対策など）	3.1%	16.9%	57.1%	77.0%	17.5%	3.6%	2.0%

## 基本目標

北区は、河川沿いの水辺や緑、崖線と湧水地など豊かな水と緑に恵まれた地域です。この特性を活かし、これまでも環境活動を率先する環境リーダーの育成や活動の場の確保、事業者への取組みを進め、一定の成果が得られています。北区でくらすあらゆる世代が、北区の特徴である豊かな自然を「ふるさと」として感じられるような意識づくりとともに、体験教室や交流会といった環境関連イベント開催によって、経験をとおした行動の定着を目指します。環境負荷対策に取り組む中小企業に対しても、その行動を推進するための支援が求められます。これらを踏まえ、区の自然環境を維持したい（守りたい）という意識を世代間で共有し、あらゆる区民が身近な自然を感じるとともに、区民・中小企業の活動の支えとなる基盤の整備を進めます。持続可能な社会を構築するためには、環境保全活動の担い手としてのづくり、活動できる地域づくりが不可欠です。

## 施策の方向性

- 1 - 1 環境保全・創造のための人・地域づくり
  - ◆「北区環境大学事業」において、みどり環境の情報館（エコベルデ）や自然ふれあい情報館などの施設を活用して、体系的な環境学習システムの構築を図り、環境学習の機会の拡充や地域の担い手となる環境リーダーの発掘・育成に取り組めます。
  - ◆家庭、学校、地域、企業等の様々な場における環境保全の取組みの推進に必要な組織・ネットワークづくり等の環境を整備することについて検討を進めます。
  - ◆民間団体によるイベントの一斉開催など、区民意識を啓発する仕組みの構築について検討します。
  - ◆環境リーダー、美化ボランティア等の民間団体が行う取組みと、取組みを行いたい区民・事業者を支援します。
- 1 - 2 環境経営の推進
  - ◆環境保全に関する取組みへの参加を促すため、中小企業に向けた情報発信を進めます。
  - ◆環境マネジメントシステムの導入を含む環境配慮の取組みが、中小企業にも普及するとともに、自らのメリットにつながるような仕組みづくりを進めます。
- 1 - 3 環境に関する情報共有の仕組みづくり
  - ◆地域に密着した環境関連の先進事例を紹介し、地域の住民・民間団体・事業者等の各主体が保有している情報の共有を進めます。
  - ◆北区環境大学事業において、情報の活用を進めます。

## 成果指標の評価（目標・進捗状況）

成果指標	具体的な目標	策定時	令和2年度	評価
北区環境大学事業での開催講座数	維持	68回	38回※	○
環境学習拠点の利用人数 ①エコー広場館 ②自然ふれあい情報館 ③みどりと環境の情報館	増加	①7.32万人 ②4.14万人 ③1,990人	①4.29万人※ ②3.9万人※ ③2,710人※	○
家庭・事業所での優れた取組みに対する表彰・公表数	表彰・公表制度の構築・運用	新規	取り組みに向けたプログラムを構築中	×
新エネルギー及び省エネルギー機器等導入助成件数（中小企業者等）	増加	2件	10件	◎
環境経営に関するセミナーへの参加者数	増加	5社	未実施	×
環境学習拠点における情報発信回数	現状維持	定期的実施	50回※	◎
区内の環境を学ぶための啓発資料の作成数	現状維持	定期的実施	3,660部	◎
有識者や高齢者等が有する環境関連情報を継承・蓄積する仕組みの構築	制度構築・運用	新規	検討中	×

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時休館・イベント中止あり

# 現行の北区環境計画の進捗評価（基本目標1 北区の環境を育むきずなづくり）

## 区民アンケート調査による評価（満足+まあ満足+普通）

評価項目	策定時	令和3年度	評価
環境関連情報の知りやすさ	69.0%	—	—
環境学習の場の充実さ	71.2%	—	—

## 参考：区民アンケート調査による評価の重要度の順位

評価項目	策定時	令和3年度	評価
環境教育・環境学習の推進	10/11	17/20	○
環境イベントや情報発信などによる意識啓発の推進	9/11	19/20	○
区民や事業所が主体となって行う環境活動への支援	11/11	20/20	○

## 総括評価

評価結果	評価
<p>施策の実施状況についてみると、「環境を育むきずなづくり」を目指し、各種の環境情報の発信・共有、学校などにおける環境教育の推進、自然観察会の開催、北区環境大学をはじめとする環境人材づくりなどの取り組みを進めています。</p> <p>成果指標の多くが区民の参加を前提とする指標としていることから、新型コロナウイルス感染拡大防止措置の影響を受けています。令和2年度実績では、休止もしくは数値が減少となっておりますが、令和元年度実績では計画策定時より増加しています。また、未実施の取り組みがあります。</p> <p>区民アンケート結果でも、環境活動についての施策に対する重要度の認識は低い状態となっております。</p> <p>今後は、より区民や事業者の興味をひきつける情報発信の方法について工夫をこらすとともに、参加したくなる講座やイベント開催を企画、実施していく必要があります。また、既存の取り組みで進捗が滞っているものについて、推進していく必要があります。</p>	B

## 基本目標

良好な生活環境と区の魅力は密接に関係しています。

北区の生活環境の保全に対する取組みは、国や東京都との連携のもと、計画的に実施されてきましたが、世帯の約7割が集合住宅に居住する北区では、住宅の過密化・生活様式の多様化等の地域課題を踏まえた新たな取組みが必要になっています。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動に関する取組みについては、国や東京都との連携のもと、概ね計画的に実施してきたところです。

身近な生活環境に関する課題に対しては、地域の実情を熟知した北区が主体的に関わることを基本とし、広域的な課題解決に関しては国や東京都、関係機関と連携しつつ、総合的に対策を進めます。

## 施策の方向性

### 2-1 身近な環境問題に関する取組み

- ◆工場や建設作業を発生源とする騒音・振動等の産業型公害については、生活環境の悪化を招かないよう、工場等の事業場に対する監視、規制・指導を行います。
- ◆一般家庭の生活騒音等の都市・生活型公害については、東京都など関連機関と連携し、良好な生活環境を守るため、相談対応するとともに、未然に防止するため啓発活動や情報発信等を行っていきます。
- ◆喫煙マナーを向上させるべく、歩きタバコによる火傷等の防止とともに、タバコのポイ捨てによる吸い殻の散乱を防止等するための事業を推進します。
- ◆町会・自治会をはじめ、地域の企業にも働きかけ、協働して地域美化に取り組みます。

### 2-2 包括的な化学物質対策

- ◆国や東京都との連携のもと、指導の徹底と正しい知識の普及によって、化学物質による環境リスクの低減に努めます。

### 2-3 広域的な環境問題の解決に向けた取組み

- ◆光化学オキシダントやPM2.5に関しては、国や東京都及び関係機関との情報交換を行ない、区民への情報発信等の対応を行っていきます。
- ◆国や東京都が行うヒートアイランドに関する調査・研究に協力します。
- ◆放射線対策については、国と東京都のモニタリング状況を注視しつつ、必要が生じた場合には、迅速に対応できる体制を構築していきます。

## 成果指標の評価 (目標・進捗状況)

成果指標	具体的な目標	策定時	令和2年度	評価
騒音・振動等に関する工場・事業場への指導回数	現状維持	定期的実施	現況届手書に基づく立入調査、講習会、苦情発生時等に実施	◎
環境美化キャンペーンの開催回数	現状維持	定期的実施	休止中※ (参考：令和元年度5回)	◎
化学物質の適正管理に関する情報発信	現状維持 情報の充実	定期的実施	周知方法の拡充を検討中	△
有害ガス排出工場・指定作業場調査における規制基準適合状況	すべて 規制基準以内	2事業所で 規制基準超過	すべて 規制基準以内	◎
光化学オキシダントやPM2.5に関する情報発信	現状維持 情報の充実	定期的実施	北区ニュース：1回 ホームページ：公表中	◎
ヒートアイランド対策に関する情報発信	情報の充実	新規	検討中	×
大気汚染物質の測定	現状維持	定期的実施	実施	◎

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中

## 区民アンケート調査による評価 (満足+まあ満足+普通)

評価項目	策定時	令和3年度	評価
空気のさわやかさ、きれいさ	77.7%	82.0%	○
におい (悪臭がしないこと)	78.4%	(82.0%)	○
水と水辺のきれいさ	76.2%	80.9%	○
まわりの静けさ	73.5%	81.8%	◎
星のみやすさ	77.7%	(82.0%)	○
地域内の清潔さ	77.2%	70.1%	△
地球温暖化・ヒートアイランド現象に関する取り組み	69.1%	77.0%	◎

## 総括評価

評価結果	評価
<p>施策の実施状況についてみると、「安全・安心な区民生活環境の確保」を目指し、法令に基づく監視、規制・指導、啓発活動などの取り組みを進めており、大気、水質、騒音・振動、ダイオキシン類とも環境基準をほぼ達成しています。</p> <p>成果指標については、概ね当初計画を達成しています。</p> <p>区民アンケート結果では、地域内の環境美化に関する満足度が落ち込んだ以外は上昇しています。</p> <p>引き続き、区民の高い満足度を維持していくため、実施中の事業を継続しながら、地域内の環境美化についての対策の改善・強化を行っていく必要があります。</p>	A

## 基本目標

区民や中小企業による省エネ・再エネ・3Rへの取組みは、地球に負荷を与えない持続可能な社会に貢献します。そのため、現行計画では、区民や中小企業に対する省エネ促進や再エネ導入、3Rの実施を呼びかけてきたところです。

世帯の約7割が集合住宅に居住する北区では、居住者の一存では設備導入が進められない集合住宅への支援を進めていくことが求められます。このような支援は区内に多く所在する中小企業に関しても必要かつ有効です。こうした低炭素社会推進の取組みとともに、3Rの一層の徹底など、循環型社会を構築していくための取組みを継続的に進めます。

## 施策の方向性

### 3-1 積極的な参加が期待されるエネルギー対策

- ◆区民・事業者の徹底的な省エネ行動普及のために、北区が率先して、事務及び事業に関する温室効果ガスの排出削減を図ります。
- ◆民間の開発事業者、住宅メーカーやエネルギー設備メーカー等とも連携し、住宅や事業所の省エネ化を推進します。
- ◆建物所有者・管理者等に対し、エネルギー供給事業者や民間団体が行う省エネに資する取組み情報を発信していくことで、住宅や中小企業の省エネ化を推進します。
- ◆技術革新の動向を踏まえて、「新エネルギー及び省エネルギー機器等の導入助成制度」の充実、省資源・省エネルギーに関する情報や、日々の営みの中で楽しみながら続けていくことができる取組み情報を発信していくなど、区民が省資源・省エネルギーに取り組むきっかけづくりを進めます。
- ◆区民が環境に配慮した行動を取れるよう、学校と連携し、家庭での省資源・省エネルギーを支援するなど、子どもの頃からの環境教育を推進します。
- ◆設備更新を行い、エネルギー消費量の実測に協力頂ける区民や中小企業と協働して、省エネ対策の普及啓発冊子を作成・公表し、さらなる省エネ対策を推進します。
- ◆再生可能エネルギーの導入を盛り込んだ先進的な地域づくりの検討を進めます。
- ◆区として、環境負荷の少ない移動手段の選択に努めるほか、ウォーキングの促進や自転車への代替による省エネ効果のアピールを進めます。

### 3-2 災害時も活用可能なエネルギーシステムの導入

- ◆災害時におけるエネルギーセキュリティに対する考え方は、想定される災害（首都直下型地震、東南海地震等）によって異なります。大規模災害によって引き起こされる問題、それを解決するための対策を実施するために北区として何をすべきかについて、検討を進めます。
- ◆災害時にも活用可能な再生可能エネルギーの導入について検討を進めます。

## 施策の方向性

### 3-2 災害時も活用可能なエネルギーシステムの導入（つづき）

- ◆家庭、ビル、地域のエネルギーマネジメントシステム、蓄電池や燃料電池等を総合的に組み合わせたスマートコミュニティや自立・分散型エネルギーシステムの構築等について検討を進めます。
- ◆地域の創意工夫をいかした自発的で低炭素な地域づくりの可能性について検討を進めます。

### 3-3 健全な物質循環の確保と循環型社会の構築

- ◆ごみ減量に有効な情報発信、ごみ減量懇談会等の開催、区民参加型事業等の拡充など、各世代に応じた3R推進のための啓発活動と環境学習を推進します。
- ◆一定の地域内で循環させることが適当な循環資源については、地域に住む人と人とのつながりに着目し、集団回収活動等の区民の自主的な活動の支援を強化する等といった、適正な規模で循環させることができる仕組みづくりを進めます。

## 成果指標の評価（目標・進捗状況）

成果指標	具体的な目標	策定時	令和2年度	評価
新エネルギー及び省エネルギー機器の導入助成件数	増加	253件	342件	◎
省エネ・再エネ設備導入技術講習の実施	現状維持	新規 (平成26年度より実施)	未実施	×
環境活動自己診断事業への参加者数	増加	回収数1,655枚	休止中※ (参考：令和元年度1,841枚)	◎
家庭・事業所での優れた取り組みに対する表彰・公表数	表彰・公表制度の構築・運用	新規	取り組みに向けたプログラムを構築中	△
区有施設への新エネルギー機器の導入件数	増加	25施設	36施設	◎
区有施設への新エネルギー機器の導入件数	適宜更新	113機	122機	◎

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中

# 「基本目標3 みんなで目指す低炭素・循環型の北区」の進捗評価

## 成果指標の評価(目標・進捗状況)

成果指標	具体的な目標	策定時	令和2年度	評価
エコー広場館の年間利用人数	増加	7.32万人	4.29万人※1	○
区民1人1日あたりのごみ総排出量※2	700g	881g	798g (令和元年度)	○
区民1人1日あたりのごみ排出量※3	563g	718g	647g (令和元年度)	○

- ※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時休館・イベント中止あり
- ※2 「ごみ排出量」：区が収集する可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、区の許可業者が収集する持ち込みごみの合計量
- ※3 「ごみ総排出量」：ごみ排出量に区が回収する資源と集団回収により回収される資源を加えた量

## 区民アンケート調査による評価(満足+まあ満足+普通)

評価項目	策定時	令和3年度	評価
省エネルギー活動の周知	75.3%	80.3%	◎
地球温暖化・ヒートアイランド現象に関する取り組み	69.1%	(80.3%)	◎
災害からの安全性	69.2%	77.0%	◎
リサイクルへの取り組み	88.1%	85.1%	○

## 総括評価

評価結果	評価
<p>施策の実施状況についてみると、「みんなで目指す低炭素・循環型の北区」を目指し、省エネ行動の周知・啓発活動、省エネ・再エネ機器の導入支援、3R行動の周知などの取り組みを進めています。</p> <p>成果指標のうち、環境活動自己診断事業への参加者数、エコー広場館の年間利用人数については新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、令和2年度実績は休止もしくは減少となっていますが、令和元年度実績では計画策定時より増加しています。また、ごみ排出量は計画策定時に比べて進捗しましたが、目標は未達成となっています。</p> <p>区民アンケート結果では、地球温暖化対策に関する満足度が上昇していますが、リサイクルへの取り組みについては満足度が下降しています。</p> <p>引き続き、2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、実施中の事業に加え、新たな地球温暖化対策、気候変動対策、ごみ減量・資源循環対策の充実・強化を行っていく必要があります。</p>	A

## 基本目標

北区には、人々に親しまれる河川と崖線の緑や湧水などの自然が残っています。  
 河川沿いの水辺は、都市に残された貴重な自然であり、数多くの野鳥、河川生物が確認されています。また、崖線から台地部にかけた古くからの緑地を活かした公園等が緑の骨格を形成し、樹林や大径木の分布も多いという特性があります。  
 緑は、日差しを遮る、気温を下げる、風を弱めることで、人に潤いややすらぎを与えます。さらには、火災の延焼防止、生け垣化による地震発生時のブロック塀等の倒壊による災害減少など、防災上の機能も期待されます。このようなかけがえのない水辺や緑を守るため、北区では、長期的な視野を持ち、生物多様性に係る意識の醸成、緑の保全と創出、健全な水循環を確保していくための仕組みづくりを進めます。

## 施策の方向性

### 4-1 身近な環境問題に関する取組み

- ◆東京都との連携のもと、区民や区内企業、民間団体等が、生物多様性の重要性を理解し、主体的な緑化や保全活動が活性化するよう、基礎情報の整理や学習機会の創出に努めます。
- ◆北区の自然の実態を明らかにするため、自然の変化の記録・保存を継続していきます。
- ◆基礎データの活用について、大学や地方・民間の調査研究機関、博物館等の相互のネットワークの強化等を通じて情報を共有する等といった、自然環境データの有効活用策について検討を進めていきます。
- ◆野生生物の生態や正しい付き合い方等を学ぶことができる場や機会の充実を図ります。

### 4-2 地域に密着した緑の保全と創出の仕組みづくり

- ◆東京都と連携し、市民緑地制度や保全地域制度等を積極的に活用し、緑の保全を進めます。
- ◆身近な緑の保全に対する意識を醸成するためにも、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、味の素ナショナルトレーニングセンターをはじめとする練習施設周辺を、区民とともに季節の草花で飾っていきます。
- ◆二酸化炭素の吸収や防災性の強化、景観の改善などに寄与するため、区有公共施設の緑化を積極的に推進するとともに、民有地の緑化を支援します。
- ◆緑地の管理にあたっては、美化ボランティアの活用等、自然共生や区民の協働を進めるための仕組みの構築について、検討を行っていきます。
- ◆既存ブロック塀等の建替を契機として、生け垣の導入を進めます。導入や維持管理における協力体制、知識や技術等の習得支援を進めます。

### 4-3 環境保全上健全な水循環の回復

- ◆雨水浸透の推進は、地下水の涵養や湧水の保全対策だけでなく、集中豪雨に伴う水害対策としても有効です。雨水浸透施設の設置や透水性舗装など水循環のまちづくりを誘導していきます。
- ◆流域自治体との連携体制を保持していきます。
- ◆区内の貴重な自然環境である湧水地等の活用等によって、人々の水への関心をより一層高めていきます。

## 成果指標の評価(目標・進捗状況)

成果指標	具体的な目標	策定時	令和2年度	評価
環境リーダー養成講座の実施	継続	実施	講座回数35回 延べ参加者計296名※	○
区内の生きものの調査結果を活用した学習会等の参加者数	増加	502名	427名※	○
北区環境大学講座の参加者数	増加	延べ1,457名	延べ766名※	○
生垣造成助成の長さ(累計)	増加	5,576m	5,897m	◎
延長20m以上の接道緑化の総延長(累計)	増加	31,610m	59,758m	◎
緑被率(1㎡以上)	20%	19.05%	18.43%	△
区内の生きものの調査を活用した緑化指針等の策定	策定	新規	検討中	×
湧水地点数	現状維持	12地点	13地点	◎
河川生物生息調査によるモニタリング	継続	実施	1回	◎

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一時休館・イベント中止あり



# 「基本目標 4 区民と自然が共生できる仕組みづくり」の進捗評価

区民アンケート調査による評価 (満足+まあ満足+普通)

評価項目	策定時	令和3年度	評価
生きものの豊かさ	72.8%	85.2%	◎
自然の豊かさ	74.9%	85.2%	◎
公園・街路樹、生垣、屋敷地などのみどりの豊かさ	78.6%	83.0%	○
自然との親しみやすさ	76.9%	(83.0%)	◎
水と水辺のきれいさ	76.2%	80.9%	○
ゆとりのある空間 (公園、広場) の多さ	75.1%	83.0%	◎

総括評価

評価結果	評価
<p>施策の実施状況についてみると、「区民と自然が共生できる仕組みづくり」を目指し、生物多様性の保全に向けた調査の実施、生物保全対策、公園・緑地などの整備、まちなか緑化などの取り組みを進めています。</p> <p>成果指標については、区民の参加を前提とする指標は、新型コロナウイルス感染拡大防止措置（施設利用制限、講座・イベント開催中止など）の影響もあり、令和2年度実績は休止もしくは減少となっていますが、令和元年度実績では計画策定時より増加しています。緑化に関する成果指標は概ね当初計画を達成しています。</p> <p>区民アンケート結果では、生きものの豊かさ、自然の豊かさ、みどりの豊かさなど、全ての項目で満足度が向上しています。</p> <p>引き続き、区民の高い満足度を維持していくため、実施中の事業を継続しながら、みどりの「量」の確保とともに、生物多様性の保全を含めたみどりの「質」を高めていくための対策の充実・強化を行っていく必要があります。</p>	A